

北海道胆振東部地震

地震の概況

北海道胆振東部地震（ほっかいどういぶりとうぶじしん）は、2018年（平成30年）9月6日3時7分59.3秒（日本時間）に、北海道胆振地方中東部を震源として発生した地震である。

地震の規模はMj 6.7、震源の深さは37 km（いずれも暫定値）。最大震度は、震度階級で最も高い震度7で、北海道では初めて観測された。

気象庁は同日、この地震を「平成30年北海道胆振東部地震」と命名した。

なお、地震発生直後には震度データの入電しない地点があり、気象庁は当初、安平町で観測された震度6強を最大震度として発表していた。その後、厚真町鹿沼で震度7を観測していたことが、当日夕方までに判明した。

また、本地震の震源がある胆振地方中東部では、2017年（平成29年）7月1日23時45分にも震源の深さ27 kmで地震の規模がMj 5.1の地震が発生しており、最大震度5弱を安平町で観測している。

震度5弱以上が観測された気象庁の発表地点

7

厚真町鹿沼

6強

真厚真町京町・安平町早来北進・安平町追分柏が丘・むかわ町松風・むかわ町穂別町京町・安平町早来北進・安平町追分柏が丘・むかわ町松風・むかわ町穂別

6弱

札幌東区元町・新千歳空港・日高地方日高町門別・平取町振内

5強

札幌北区太平・札幌北区篠路・札幌北区新琴似・札幌白石区北郷・札幌手稲区前田・江別市市緑町・札幌清田区平岡・千歳市北栄・千歳市若草・千歳市支笏湖温泉・恵庭市京町・三笠市幸町・長沼町中央・苫小牧市旭町・平取町本町・新冠町北星町・新ひだか町静内山手町・新ひだか町静内御幸町

5弱

石狩市花川・石狩市聚富・石狩市花畔・新篠津村第47線・札幌豊平区月寒東・札幌西区琴似・札幌厚別区もみじ台・江別市高砂町・恵庭市漁平・北広島市共栄・函館市新浜町・岩見沢市栗沢町東本町・南幌町栄町・由仁町新光・栗山町松風・胆振伊達市大滝区本町・室蘭市寿町・苫小牧市末広町・登別市桜木町・白老町大町・白老町緑丘

長周期地震動

長周期地震動に関する観測情報

階級	地域
階級4	石狩地方南部、胆振地方中東部
階級2	石狩地方北部・中部、後志地方北部・東部、空知地方南部、上川地方南部、日高地方西部・東部、十勝地方中部
階級1	渡島地方東部、檜山地方、後志地方西部、空知地方北部・中部、上川地方北部・中部、留萌地方中北部・南部、北見地方、胆振地方西部、日高地方東部、根室地方中部 青森県津軽北部・下北、宮城県北部

被害・影響

消防庁集計による2018年10月5日
16時00分時点の被害状況

- ・ 死者41人
- ・ 負傷者691人
(重傷17人、軽傷674人)
- ・ 住家の全壊394棟、半壊1016棟、
一部破損7555棟

・ 震源に近い勇払郡厚真町では土砂崩れに巻き込まれた36人が死亡した。特に吉野地区では多くの住宅が巻き込まれ、吉野地区の住民34人のうち19人が亡くなった。

・ 厚真町、安平町、むかわ町では多くの住宅が倒壊した。この他、道央地域（石狩、胆振管内）を中心に道路などの損壊が相次いだ。札幌市清田区では道路が波打ち状に大きく損壊した。

・ 室蘭市の新日鉄住金室蘭製鉄所ならびに、厚真町の北海道電力苫東厚真火力発電所で火災が発生した。また新日鉄の火災は室蘭港に延焼した。

・ 全道で停電が継続した影響で、7日、自家発電機を回した事が原因と推定される一酸化炭素中毒により、空知郡上富良野町と標津郡標津町で合わせて2名の死亡が確認された。

土砂崩れ

- ・この地震では強震動によって厚真町を中心に広い範囲で土砂崩れが発生した。国土交通省によると、崩壊面積は推定約13.4平方キロメートルで、濃尾地震や新潟県中越地震を超えて、明治以降で日本最大であった。

この土砂崩れのすべり面は降下軽石層が関係していることが指摘されており、周辺の地表は支笏カルデラを作った4万年前の巨大噴火や恵庭岳・樽前山噴火によって噴出した火山灰や軽石などのテフラ（火山砕屑物）層が形成された不安定な地層構造であった。

前日の台風や、6 - 8月の降水量が平年の約1.6倍と多かったことから、土壌に多量の水が含まれ一気に表層崩壊したとも考えられている。また降下軽石層は透水性が高く、化学的風化で粘土化し、土砂崩れが起こりやすくなっていた可能性も指摘されている。

- ・農業用水用の厚真ダムでは9月6日、土砂崩れにより水路が埋没していることが確認された。農林水産大臣齋藤健は、今後の降雨によりダムが溢れることに対する対策を、自衛隊の協力も含め検討していることを語った。

- ・二級河川日高幌内川では、長さ約1,100 m、高さ約50 mの規模で土砂が河道に流れ込み河道閉塞が発生した。

液状化現象

- ・地震による液状化現象とみられる異状が、北海道内の5市町村で発生した（9月26日時点の共同通信による各自治体への取材に基づく）。
- ・苫東厚真火力発電所（厚真町）敷地内、苫小牧港コンテナターミナル（苫小牧市）のほか、札幌市、北広島市、江別市内である。
- ・札幌市の液状化現象では、道路が隆起した。また清田区では地震発生当日、少なくとも2か所で道路が陥没し、うち里塚1条の現場では周辺複数家屋が陥没道路に向かって傾いた。

大規模停電

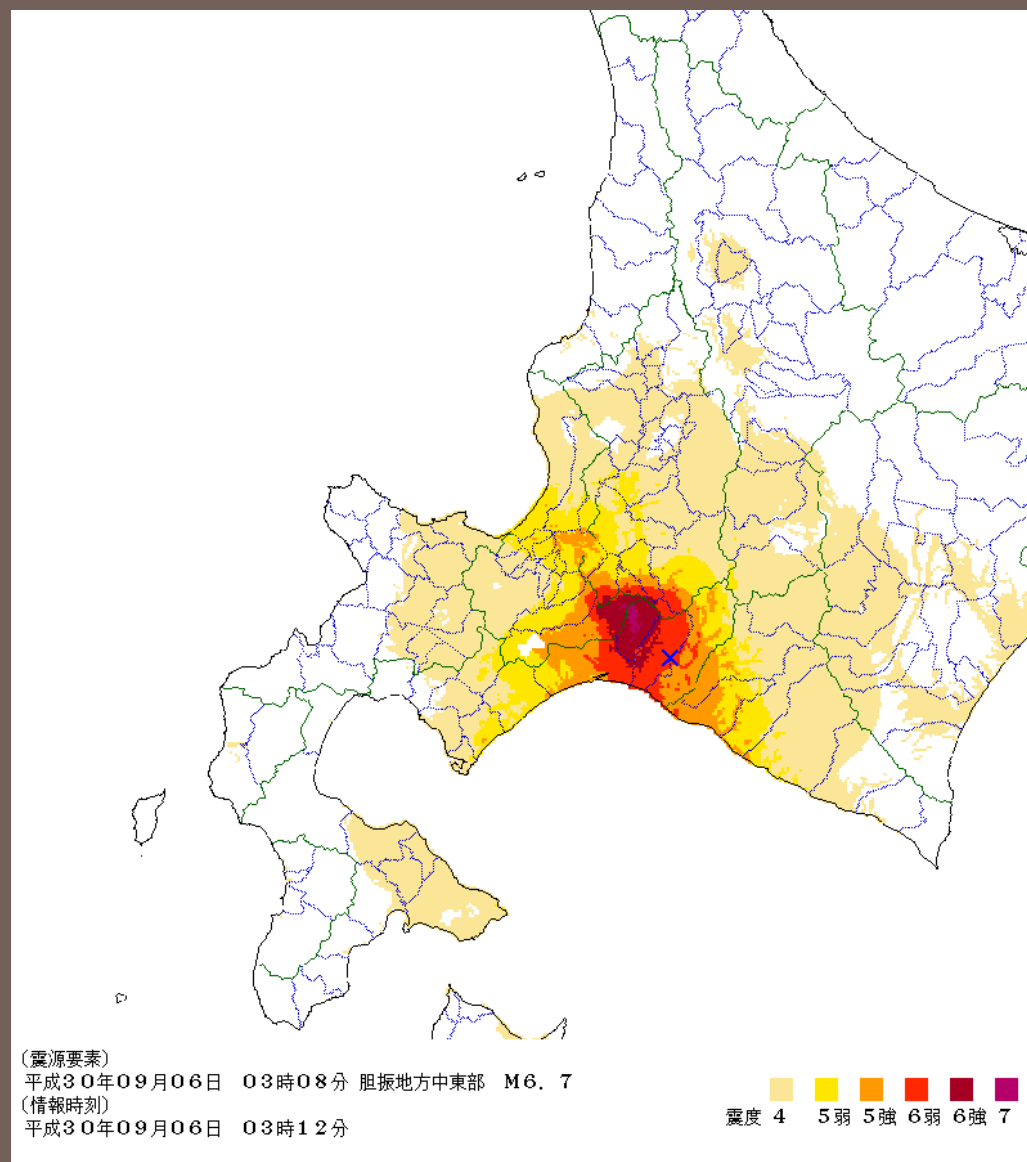
- ・地震により苫東厚真火力発電所ではボイラー管が破損。3基（3号機が廃止）のうち2号機、4号機が緊急停止し、道北、函館で停電が発生。さらに地震発生から18分後の3時28分に1号機が停止。道内の半分の電気を供給していた発電所が完全に停止したことにより、連鎖的に他の発電所も停止し、北海道・本州間連系設備の送電も止まった。この結果、道内の離島などを除くほぼ全域約295万戸で停電が発生した。

- ・道内全域停電は1951年の北海道電力創設以来初の出来事である。また、停電により、泊原子力発電所の外部電源が喪失し非常用電源に切り替わった。大規模な停電により、災害基幹病院では通常の救急対応が出来ない状態が発生。一部では、救急車の受け入れのみ再開した。

- ・電気事業連合会によると、管内のほぼ全域で電力が止まる「ブラックアウト」が起きるのは初めて。

また、前述のとおり完全復旧に時間を要する事から、道内で輪番停電の実施を計画。管内を60のブロックに分け1回2時間程度送電を停止する計画。実施は2日前までに予告する形となる。9月14日には一定の供給力を確保できたため、計画停電は「当面は実施する必要はない」とした。

震度分布図



北海道胆振東部地震——全域停電

2018年9月6日3時7分。北海道厚真町で震度7を観測した「平成30年北海道胆振東部地震」が発生。震源近くの苫東厚真発電所が停止し、送電線故障に伴う水力発電所の停止も重なって、3時25分、道内全域、約295万戸が停電した。国内初のエリア全域停電、いわゆるブラックアウトだ。

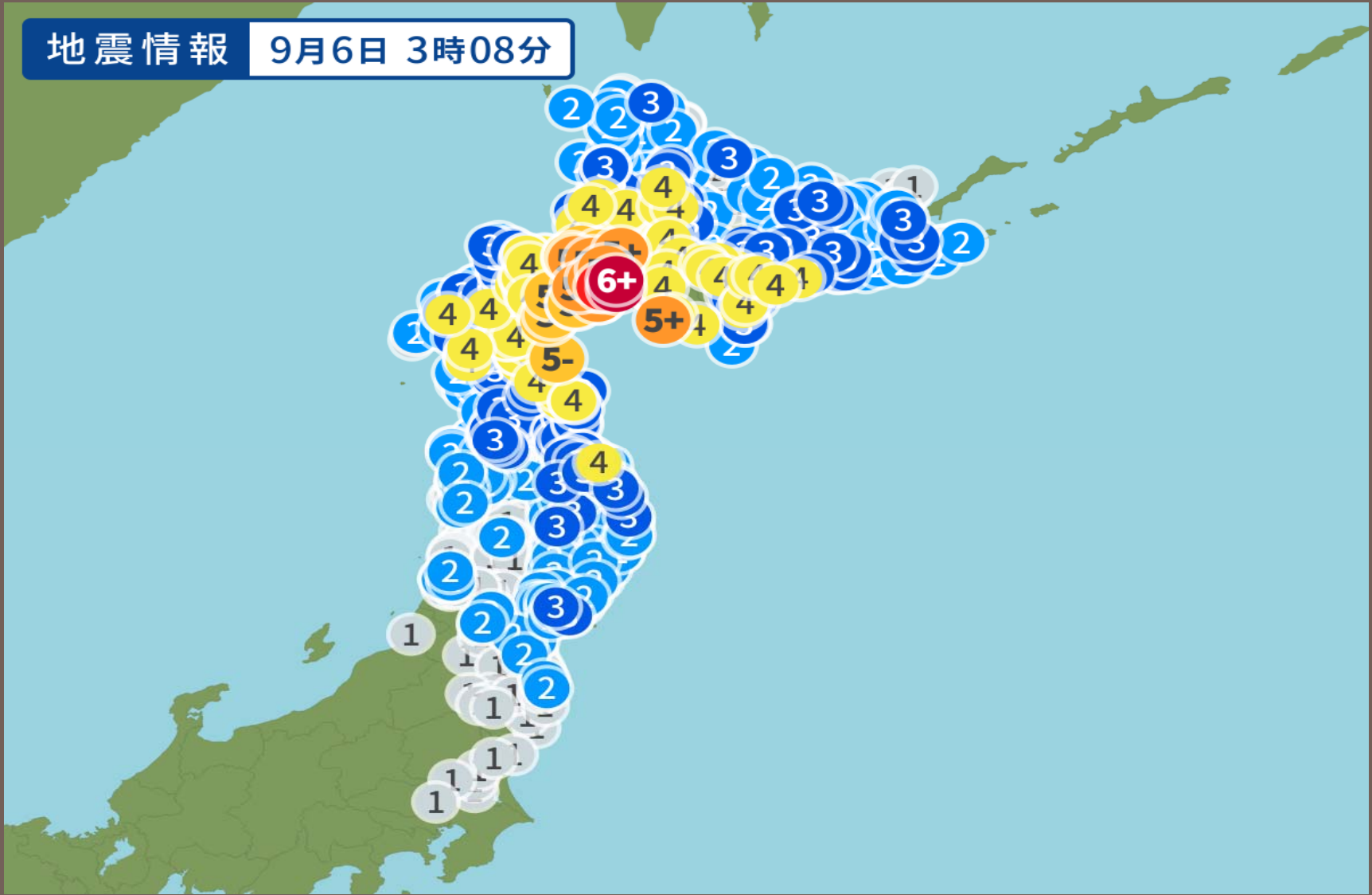
北海道電力はブラックスタート機能のある水力を立ち上げ、徐々に供給エリアを拡大。他電力からの応援も得ながら、2日間で99%まで復電。10月4日には地震に伴う停電はすべて解消した。今は、冬の実需期を前に、被害を受けた苫東厚真発電所の整備や、停止中の発電所の立ち上げを急ぐ。

地震から1カ月。供給力確保、設備復旧、応急送電などに取り組んだ姿を写真で追った

9月6日 地震の後、明かりが消えた



地震情報 9月6日 3時08分



【17時49分】正式名称は「平成30年北海道胆振東部地震」

気象庁は、北海道で最大震度7を観測した地震を、「平成30年北海道胆振東部地震」と名付け、発表した。

【16時39分記事】7人死亡、安否不明者数は見えず 政府発表



あちこちで山肌が崩れ、土砂が道路や建物を覆っていた＝2018年9月6日午前10時57分、北海道厚真町、朝日新聞社機から、山本壮一郎撮影

菅義偉官房長官は6日午後4時過ぎの記者会見で、道内の7人が死亡したと発表した。内訳は厚真（あつま）町4人、札幌市1人、むかわ町1人、新ひだか町1人、安否不明者数



土砂崩れ



液状化現象



